



# 医学生通信

〈第10号〉 毎月1回発行

地域住民に寄り添ったプライマリ・ケアを学べる  
実習申込はこちらから！

わたり病院

検索



2014年もよろしくお祈いします！



〒960-8141 福島県福島市渡利字中江町34  
医療生協わたり病院 医局事務課  
Tel.024-521-2058 Email: rinko@fmc.u-coop.or.jp



あけましておめでとうございます。皆さんはどんなお正月を過ごされましたか？それにしても冬休み短いですよー！まあ、休み伸びたからって講義がなくなるわけじゃないですからね、このくらいがいいのかもしれないですね(悲) さて、当院に年明け前にも実習に来ていただいたので、去年の記憶を引っ張り出してご報告します(°o°)

## 年末も実習に来ていただきました ～研修機能編～

福島県立医大5年 Sさん

### 実際どのように治療していくかを学べる



(上) 当院の実際の患者さんの症例をもとに、臨床推論していく「ドクターWJWI」はわたりのWだぞ！パクリじゃないぞ！きっと！

(左) 病棟での指導医との1コマ。Sさんは患者さんとも仲良くお話していたようでした

### 実習後の感想【1日目】

大学の实習では学んだことはあっても、実際にこの症例の患者さんを受け持ったことはなく、実際の治療方針についてそれほど深く考えたことがなかったので、とてもいい機会だと感じました。また、臨床倫理4分割法を用いて実際の患者さんを例に学ぶことができよかったです。

事務の方がとても手厚くサポートしてくださり、とても実習に参加しやすいなと感じました。



なんとこの日は沖縄民医連の仲間よりクルマエビが送られてきました！

### 患者目線から医療スタッフとしての目線へ



(左) 医師だけでなく、看護師やMSWなど他職種も参加するカンファの様子



(右) みんなでお昼(。^)ぶっちゃけ食堂もない小さい病院ですが、アットホームな休憩所はありますよ(笑泣)

### 実習後の感想【2日目】

家族の介護を通じてリハビリの重要性は感じていましたが、今までの見方は患者目線ではなく、今回医療者側からのリハビリに対する取り組みを見学することができ、本当によかったと思います。

※今回の実習にあたって、内科研修機能だけでなくご本人から実習したい科をお聞きして実習プログラムに組み込みました。

# 年末にも実習に来ていただきました ～地域医療体験編～

福島県立医大1年 Kさん



当院同法人のクリニック、いいの診療所の在宅往診の様子。医学生の方皆さんも、普通の実習ではあまり回れない在宅医療の現場には感動。



(左)オペ室にて。手技体験もやりました！

(右)病院の電算室…って、ここまで見せるのかー(笑)

## 実習後の感想

高校生のときに職場体験をしたり、大学の早期ポリクリで現場を見させていただく機会はありましたが、こんなにも働いている方々の近くで話を聞いたり実際に手で触れてみたりできたのは初めてで、とても新鮮でした。事務の方に様々な場所へ連れて行って説明していただき、とても助かりましたし勉強になりました。

また在宅往診に同行させていただき、様々な医療の形があるのだなと驚きました。

今後の医学部での学びをするにあたり、非常に高いモチベーションで臨めるような気がします。

【わたり病院での医療活動について感じたこと】

本格的な健診を受けるところから、在宅医療もしくは介護施設への橋渡しまで全て担っているところがすごいと思いました。

# Recommended

## 病気を治療するのは医者。

## じゃあ病気にならないように健康をつくるのは…？

小学館101新書

命の格差は止められるか

著/イチロー・カワチ

定価 756円(税込)

### 命の格差は止められるか

ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業

Ichiro Kawasaki

イチロー・カワチ



【著書紹介】

ハーバードで世界が熱い視線を送る授業がある。日本人教授イチロー・カワチによる健康格差論の授業だ。先進国の中で寿命が短いアメリカと、世界トップ級の日本。この違いは格差にあった。今、格差の広がりとともに日本の長寿は危機に瀕している。格差はストレスを生み、信頼や絆を損ね、寿命を縮める。人々の命を守るには、日本の長寿を支えてきた、格差が少ない結束の強い社会を守るべき——所得、教育、労働、人間関係…あらゆる側面から格差を分析、新たな長寿への可能性を探る。

発行元に許可とろうと電話したら、「なるべく大きく載せてください」って言われたのでその通りに…www

January, 2014 Watari Hospital